

市長の地域説明会～地域コミュニティのしくみづくりなど～

質 疑

- 1 日 時 平成 29 年 4 月 22 日（土） 15 時 00 分～17 時 10 分
- 2 場 所 滑石地区ふれあいセンター 研修室 A・B
- 3 参加者 57 人
- 4 出席者 市長、企画財政部長、総務部長、企画財政部政策監（地域コミュニティ担当）、総務部政策監（行政サテライト担当）、企画財政部政策監（大型事業担当）、福祉部政策監（地域包括ケアシステム担当）、滑石支所長

<（仮称）地域コミュニティ連絡協議会について>（以下、「協議会」という）

●滑石3丁目は小学校が3か所にまたがっている。どうやってコミュニティを1つにまとめたらいいのか。教育委員会の考え方は。

- ・子供たちの数が減ることで、部活動ができない、クラス替えができないなどデメリットや子供たち一人一人に目が行き届きやすいメリットがあり、これらを含めて子供たちの今からの教育環境を考えていく時期であり、地域のみなさまとお話をさせていただきたい。改めて教育委員会の方からお話をさせていただきたい。

●若い人に参画してもらおう取り組みをお願いしたい。

- ・協議会として1つにまとまって一緒に活動していく中で人材の発掘にもつながると考えている。

●まちづくり計画と社協の小地域計画との関係は。

- ・小地域計画はたくさんの方々が話し合いを重ねて作成されたものなので尊重したい。屋上屋にならないよう調整したい。

●横尾地区では、「子どもを守る」をキーワードに大人が積極的に子供に声をかける。その活動を通して（子供たちは）大人とコミュニケーションをとり、新たな活動につながっている。今後のコミュニティづくりの模範になる。

- ・これを土台に協議会を進め、さらにつながりを広げていただきたい。また、各地域の素晴らしい取り組みを紹介し合う「わがまちみらい情報交換会」を毎年実施しているので、今年の開催についてもみなさんにお知らせしていきたい。

●小さな公園が7か所あるが、すべて自治会の方が掃除している。この負担を軽減できないか。

- ・協議会をつくって、清掃は委託しよう、子供会にお願いしようなど、交付金を使いながら、どういうまちづくりをしていけばいいかを話し合っただけであればと思う。市長説明会の後に、小学校区単位で地域コミュニティ推進室の職員が説明に回るので、そこでしっかり説明させていただきたい。

<交付金について>

●交付金の具体的な金額は。財源はどこなのか。

- ・1つの検討の案としては、全体として1人あたり500円を想定している。財源は合併特例債。全市で年間2億円程度かかると見込まれるが、今現在20年分は確保している。ずっと続けていけるようにしっかり担保していきたい。配分については今後検討していく。

●交付金はどういうことに使えるのか。たとえば乗合タクシーやコミュニティバスの運営に使えるのか。

- ・まちづくり計画の中で課題についての方向性を地域で考えていただき、それに基づいた活動等に使っていただく。

●今もらっている補助金等は減るのか。

- ・現行の補助金についてはそのまま維持する。

<行政サテライト機能再編成について>

●新しい滑石地域センターはどこに建つのか。

- ・ダイレックス横の用地が周辺の施設の移転用地となっているが、その中での場所はまだ具体的に決まっていないので、決まり次第お伝えする。

●まちおこしなど何かしようとしても、適した場所がない。

●自分のまちを活性化することが住んでいてよかったと思うことにつながるが、自治会の公民館（集会所）がないため、近くの元幼稚園の園庭を借りて、まつりやラジオ体操をしている。また、高齢者サロンも個人宅を利用して行っている状況である。地域でやりたいことのコンセプトはしっかりしているのに、公民館の整備について、市は土地があれば補助するなどとはしか言ってくれない。

- ・地域の方が集まる場は必要だが、同時に土地がないという状況でもある。行政サテライト機能再編成では地域センターにまちづくり担当の職員を置くこととしており、どう解決できるか一緒に考えていきたい。

<その他>

●高齢者が増えているが、特に閉じこもりがちの方への健康支援は。

- ・高齢者ふれあいサロンに出て地域の方々と喋ったり健康づくりをしていただきたい。閉じこもりの方も含め、地域での健康づくりのため、市内に在宅支援リハビリセンターをつくるようにした。リハビリの専門職が、ご家庭に訪問したり、地域の行事などに出て、健康の体操やリハビリを進めるので、地域や家庭でいろいろな運動をしていただきたい。

●新しく転居してくる若い人たちが自治会に入らない。

- ・広報ながさき等で自治会の役割などをPRしていきたい。また、（今行っている取り組みとしては）自治会費を共益費に含んでもらうようマンション、アパート建設前からオーナーにお願いしている。

●自治会加入率の低下、成り手がいない。地域を故郷として感じるように地域の歴史とかを子供たちに教えていく必要がある。

・昨年子供たちのまちづくりアイデアコンテストの中で、小学校1年生の子が自分たちのヒーローは自治会長さんで、見守り活動をしてきていることを発表してくれた。

地域のためにみなさんが頑張っていることを理解している子供たちは、自治会の必要性も学びながら大人になっていくと思うので、地域の故郷教育の観点から教育委員会も昨年度から取り組みをしている。また、市役所の職員も、自治会には約98%ぐらい加入しており、これからも取り組んでいく必要がある。今度の協議会の中で、今まで自治会の必要性等が見えてこなかった方々もみなさんと一緒に地域の課題に取り組み、自治会の必要性についても理解が深まると思う。そういう地道な取り組みを積み上げて、自治会の加入率向上に取り組んでいきたい。

●ゴミ袋は自治会を通して配布するようにしたら、自治会に入るのではないか。

・市としてもごみの減量化のため、H14.2に指定有料化した際に、ゴミ袋の販売方法を含め、市でも検討した結果、現在の形になっている。意見があったことは環境部に伝える。

●若い層を取り込むために、情報伝達手段としてSNSを活用してはどうか。

・(若い層を取り込むための)アイデアの1つとして検討させていただきたい。

●高齢者が多いので、各地区でのマップ(ささえあいマップ)が必要かと思うがプライバシーの問題などがある。

・個人情報の同意を得た方をマップに載せることができる。市内では約10か所以上でささえあいマップ作りに取り組んでいる。

・災害の時だけでなく、日頃からの声かけや見守りにもつながるので、高齢者すこやか支援課も支援するのでささえあいマップ作りにぜひ取り組んでほしい。

●斜面地なので高齢者の買い物支援ができないか。

・買い物の支援は全市的な課題でもある。サロンなど高齢者が集まるところに業者に来てもらったり、デイサービスの中で買い物をしてもらうなどの取り組みも検討している。